

# 2013 FIM世界耐久選手権シリーズ “コカ・コーラゼロ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース第36回大会 参戦報告書 予選:15位 決勝:12位

---

- エントリー名 : エヴァRT初号機シナジーフォースTRICK STAR
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー : 芹沢 太麻樹 / 出口 修 / 井筒 仁康
- 開催日/サーキット : 7月26(金)~28(日) / 鈴鹿サーキット(三重)
- ゼッケン : #01
- マシン : カワサキZX10R
- 結果 : 予選:15位 決勝:12位

[予選] 7月28日(金) WEATHER: Cloudy COURSE: Dry

予報通り曇り空となった鈴鹿サーキット。

第1ライダーの予選1回目、芹沢太麻樹選手がコースインした。

前日のテスト時からセッティングを詰めるもなかなか良いフィーリングにならず苦戦していた。

予選1回目はセッティングを詰め、午後からの予選に備える為の時間とし

試行錯誤しながら良い方向性を探って行った。

結果は4周目に記録した、2分11秒471となり14番手につけた。

第2ライダーの予選1回目、出口修選手がコースイン。

芹沢選手同様、午後からの予選に備え

少しでも良い方向性へ向かう様に試行錯誤しながら周回を重ねる。

セッションをマシンセッティングに重点を当てたため、

結果は2分10秒738となり、この組で8番手となった。

第3ライダーの予選1回目、井筒仁康選手がコースイン。

前日の転倒の影響が少なからずあり、

日曜日の決勝に備えるため、無理をしないとの監督の指示により

無理にアタックはせずに周回を重ねる。

しかし、大事を取りこのセッションは3周にて取りやめ

井筒選手は決勝へ備え事にした。

記録は3周目の2分11秒885となった。

予選2回目の計時予選、第1ライダーの芹沢選手がコースイン。  
中古タイヤにて数周周回を重ね、タイムが上がってきたところでピットインし  
フレッシュタイヤを装着し再びコースイン。  
早速アタックを開始する芹沢選手だったが、  
コース半ばにてエンジントラブルを起こしマシンが停止してしまう。  
そのままセッションは終了し、記録は8周目の2分10秒789となった。  
第2ライダーの予選2回目までは15分のインターバルしかなく  
出口選手はスペアカーにてコースインする。  
しかし、このウィーク中、スペアカーにはほとんど乗る事がなく  
思うようにタイムが伸びて行かない。  
セッション後半、フレッシュタイヤを装着し  
アタックをするもクリアラップも取れず2分10秒145となりこの組6番手となった。  
第3ライダーの井筒選手はケガの影響により  
決勝に向け大事をとり走行を見合わせたため、出口選手の記録した2分10秒145が予選記録となり  
決勝グリッドは15番手からのスタートとなった。  
これによりトップ10トライアルへ出場する事が出来なくなったが、  
故障したメインカーの修復に時間を使える事となり  
この日、チームは深夜までマシン修復を行った。

## **[決勝] 7月28日(日) WEATHER:Fine COURSE:Dry**

### 1st ステイント

スタートライダーは出口選手が担当。  
前日のフリー走行にて逆バンクでの転倒があったが  
深夜までマシン修復を行い、メインカーにてスタートする事が出来た。  
今年は『千人作戦α』として昨年以上のお客様が応援席から  
「8時間 心重ねて」昨年から、そしてフランスへ「繋ぐ想い」で共に戦ってくれている。  
15番グリッドからのスタートとなったが、1周目を12位にて通過。  
その後も2分11~12秒台と比較的ハイペースで周回を重ね、19周目には11位へと順位を上げる。  
チームは7回ピットの作戦を立てていた為、序盤は無理をせず燃費を稼ぐ走りをするようにしていた。  
この作戦通り、ほぼ完璧に出口選手がこなし、どこのチームよりも距離を伸ばした。  
25周目にピットイン。  
タイヤ交換と給油を無事に終え、芹沢選手へとライダー交代を行う。

### 2ndステイント

一番暑い時間帯に芹沢選手がライディング。  
芹沢選手も2分12~13秒と安定した周回を重ね、  
上位陣の背後に付け想定通りのペースで11位をキープし27周でピットイン。  
タイヤ交換と給油を無事に行い井筒選手へと交代する。

### 3rd ステイント

井筒選手がライディングする3rd ステイント。ピットワークを無事に終えコースイン。  
しかしコースインして1周目、井筒選手が緊急ピットインをする。  
エンジン回転数が上がらないという症状によるものだ。

ピットインをし、エンジンを止め原因を探るためロガーデータを吸い出していたところ  
症状が改善されたため、この症状の深追いはせず様子を見る為に再びコースイン。  
この作業の為に約5分という大幅にタイムロスをしてしまい  
順位を23位まで落としてしまう。

しかしケガが完全に癒えない井筒選手であったが追い上げをし 27周目には14位まで順位を上げる事が  
できた。緊急ピットイン後はエンジン回転が上がらないという症状は出る事がなく 順調に27週の周回を重ねる事が出来た。そしてピットイン。  
順調にピットワークを終え出口選手へとライダー交代を行う。

### 4th ステイント

出口選手へと交代しコースイン。

ピットインのタイミングにより17位まで順位を落としてしまう。

しかしチーム一同の諦めない姿勢に応える形で 2分11~12秒のハイペースで周回を重ねる出口選手。  
順調に周回を重ね、20周目には13位までを上げ26周目に13位をキープした状態でピットイン。

### 5th ステイント

順調にタイヤ交換と給油を終え出口選手から芹沢選手へとライダー交代。

芹沢選手も安定的な走りを見せ、13位をキープした状態で周回を重ねる。

2分12秒~13秒台のラップタイムで無理はせず勝機を狙い周回を重ねる。

22周目に12位へ順位を上げ、更に前を猛追する。

やっと10位争いに追いついて来た27周目でピットイン。

井筒選手へと交代を行う。

### 6th ステイント

順調にピットワークを終えコースインする井筒選手。

コースインして1周目、井筒選手が再び緊急ピットイン。

またしてもエンジンの回転数が上がらないという症状が出たのだ。

ピット内にマシンを入れ、様子を見ているが症状が収まっているようなので  
これ以上タイムロスは出来ないと判断し早々にコースイン。

その後はその症状が出る事は無く

2分11~13秒台にて安定した周回を重ねる。

27周目に12位をキープしてピットインをする。

## 7th ステイント

順調なピットワークにて井筒選手から出口選手へとライダー交代が行われる。エンジン回転数が上がらないという症状の対策を施し、症状はすっかりおさまり、出口選手は2分11～12秒のハイペースにて順調に周回を重ねて行く。ライトオンの予定が30分程早まり、18時20分にライトオンボードが掲示される。この時、鈴鹿の空は雲が広がり今にも雨が降りそうな状態となっていた。その雲の影響もあり、ライトオンが早められたのだ。『千人作戦α』応援席では、事前にスティックライトを使ったミッションが18時50分から予定されていたが、こちらも30分早められ18時20分からスティックライトを使った応援ミッションが始まった。そして、26周目に12位をキープした状態でピットイン。

## 8th ステイント

いよいよ最後のステイントを芹沢選手が務める。ピットワークの際にヘッドライトの消し忘れに注意し順調にピットワークを行った。コースインし、まもなくコース上に雨が落ち始めた。ピットクルーたちは芹沢選手がいつピットインしても良いようにレインタイヤを準備し、マシンをすぐにレイン用のセッティングに変更出来るように役割分担を明確にし、監督、チーフメカニックを中心に入念な準備を行っていた。そしてチェッカーの19時30分まで残り30分程となったところで雨が激しく降ってきた。そのタイミングで芹沢選手がピットインし、レインタイヤへと変更を行う。タイヤ交換を素早く行い、予め決めていたレイン用セッティングへクルー全員が協力し瞬時にセッティングの変更を行った。そして混乱する事無く無事作業を終えコース復帰を果たす。この時チーム応援席スタンドでは観客たちが自然とスティックライトを振って全力で応援していた。その後も雨は激しくなり、このタイミングでのタイヤ交換は成功し、12位をキープする事が出来た。暫くし雨が収まってきたが残り時間を考えレインタイヤのまま周回を重ね19時30分のチェッカーを12位にて無事受ける。

### 【ライダー 芹沢太麻樹選手】

まずは、応援していただきました皆様、ありがとうございました。

レースは、序盤から見舞われた細かいマシントラブルにより、残念ながらリザルトに終わりましたが、ライダー、メカニック、スタッフ全員が全力で取り組んだ上での結果だったとご理解いただければと思います。

個人的には、春先に負った肩の怪我の回復途中での参戦という厳しい状況ではありましたが、これまで、自身で出来ることはすべてやり尽くしてここに臨み、そして現場でのメディカルスタッフの献身的なケアのお陰で、この大一番を乗り切ることができました。

今後も、自身の向上に努め、進んでいきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします。

### 【ライダー 出口 修選手】

先ずは、エヴァRT初号機シナジーフォース TRICK STARに熱い声援を送って下さった皆様から御礼申し上げます。

チーム一丸となって挑んだ今年の8耐でしたが、結果12位と惨敗でした。

受け入れがたい現実ではありますが、これが今の我々の力量だと真摯に受け止め、立ち止まる事なく次なる挑戦に向けて前へ進み続けて行きたいと思っております。

今後も変わらず応援頂ければ幸いです。

### 【ライダー 井筒 仁康 選手】

今年も昨年に引き続きエヴァRT初号機シナジーフォースTRICKSTAR

からの参戦となり、昨年ゴール5分前にエンジントラブルでリタイヤした雪辱を果たそうと、ライダーも芹沢選手 出口選手と同じペアリングで挑みました。

木曜日のフリー走行ではマシンのセッティングを確認しながら走行していたのですが、デグナーカーブでコースアウト転倒してしまい右膝を打撲してしまいました。

金曜日の予選では前日の転倒での怪我の影響もあり3周だけの走行をしました。

日曜日、決勝では出口選手がスタートライダーとなり8時間耐久レースがスタートしました。1時間経過時点では10番手前後を走行し芹沢選手にライダー交代、2時間経過時点で

芹沢選手からマシンを受け継ぎコースインしたのですが、コースイン直後電気系のトラブルでエンジン回転が上がらず急遽ピットイン、原因が解らず再びコースインしたのですが

順位が23番手まで下がってしまいました。

その後は走行を続け出口選手 芹沢選手にライダー交代し12番手まで順位を回復していたのですが、私にライダー交代した直後またしても電気系トラブルが出てしまい再びピットイン、その後は順調に走行を続けゴールしましたが12位と納得いく結果が出せませんでした。

昨年の雪辱を果たそうとチーム一丸となり鈴鹿に乗り込んだのですが、納得のいく結果が残せず、改めて8時間耐久の難しさを実感いたしましたし、今のチームに足りない所も見えたので、来年の8時間耐久に向け、また今年9月に行われる世界耐久選手権ル・マン24時間に向けマシンを仕上げて戦いたいと思っておりますので、今後も応援よろしくお願いたします。

## 【監督 鶴田竜二】

まず、はじめに応援席に集まって頂きましたファンの皆様、全国で応援して頂きました皆様、ご協賛ならびに協力を頂きましたスポンサー様や関係者の皆様、今回も応援いただきまして誠にありがとうございました。暑い中、最後までご声援頂きまして感謝致しております。

昨年のレースで悔しい思いをしてからこの一年リベンジに燃えて万全の準備をして来たつもりでした。しかしウィークに入り、井筒選手の転倒があり左膝を痛めてしまったのと、シーズン始めのテストで左肩脱臼という怪我をした芹沢選手の肩の具合も万全ではなく、ライダーのコンディションが心配されました。

金曜日の予選では芹沢選手のタイムアタック中でエンジンが破損してしまい、その後もスペアマシンでタイムアタックをしたのですが、ここでもクリアラップが上手く取れず平凡なタイムに終わってしまいトップ10トライアルに残れないと言う屈辱的な状況で進みました。

土曜日のフリー走行でまさかの出口選手の転倒もあり、夜を徹して修復し決勝を迎えることとなりました。

そんな中、朝のフリー走行ではメカニックの努力のお陰でマシンはウィーク中で最高の仕上がりだとライダーのコメントもあった事で決勝レースでは手応えを感じていました。

しかし決勝がはじまり調子が良かったはずのマシンに2ndスティントを終えたところでエンジンが吹け上がらないと言うトラブルが起きてしまい、良い流れを引き寄せる事が出来ませんでした。

そのトラブル以外は順調だっただけに実に悔やまれた結果となってしまう残念で仕方がありません。

応援頂きました皆様の期待に応える結果が出せなくて本当に申し訳なく思います

今後は今回のトラブルの原因を究明し、二度とこのような事がない様に準備を進め

この後に控えているル・マン24時間耐久レースに気持ちを切り替えて前へ進みたいと思います。

諦めずにチャレンジを続けて参りますので引き続き応援よろしくお願ひ致します。